

諸 報 告

	ページ
第 1 前回幹事会以降の経過報告	
1 会長メッセージ	1
2 会長等出席行事	8
3 委員の辞任	9
第 2 各部・各委員会等報告	
1 部会の開催とその議題	9
2 幹事会附置委員会の開催とその議題	9
3 機能別委員会の開催とその議題	9
4 分野別委員会の開催とその議題	11
5 課題別委員会の開催とその議題	21
6 若手アカデミーの開催とその議題	22
7 サイエンスカフェの開催	22
8 総合科学技術・イノベーション会議報告	23
9 記録	23

第1． 前回幹事会以降の経過報告

1 会長メッセージ

「日本学術会議第23期1年目（平成26年10月～平成27年9月）の活動に関する評価」における指摘事項に対する考え方について

2016年6月14日
会長 大西 隆

4月14日～16日に開催された日本学術会議第171回総会では、外部評価有識者の尾池和夫座長から、日本学術会議第23期1年目（平成26年10月～平成27年9月）における日本学術会議の活動状況に関する評価（以下「外部評価」という。）について、御報告いただきました。

外部評価は、尾池座長をはじめとする6名の外部評価有識者の皆様に、日本学術会議の活動状況について評価していただいたものです。日本学術会議の活動をより一層積極的かつ効果的なものにしてくため、活動面、組織面について、重要な御指摘をいただきました。御指摘のあった以下の点について、私の考えと実行へ向けた決意をお伝えします。

1． 日本学術会議に求められる役割について

【指摘事項（外部評価から抜粋）】

学術会議は、人文・社会科学も含め、あらゆる学問分野から選出された会員・連携会員で構成されているが、この分野横断的な組織であることこそが学術会議の強みである。そのため、学術会議に求められる役割とは、その強みを最大限活かし、大所高所の見地から、長期的な展望に立った、俯瞰的・学際的な活動を、時宜を得て行うことである。

しかし、昨今の活動の中には、各学会でも議論できるような、専門的・各論的なものも多く見受けられるが、こういった活動は分野横断的な組織であるという強みを十分に発揮したものとはいえない。各学会で議論できることは、各学会に任せ、学術会議の活動は、その強みを活かし、分野横断的で社会的に取り組む必要がある課題に特化すべきである。取り組むべき課題の「選択と集中」を徹底することにより、今後、学術会議からインパクトのある提言等の意思の表出が行われることを期待する。

また、意思の表出については、単に数を増やすだけでは個々の提言等が希釈されてしまう恐れがあるので、勧告や要望といった、より強い意思の表出を発出することも効果的である。意思の表出に当たっては、状況や内容に応じて、積極的にメリハリをつけることを検討されたい。

【指摘事項についての考え方と対応】

(俯瞰的・学際的な議論の必要性)

最近の数期の活動の中では、分野横断型の委員会や、そこでまとめられた提言等が増加してきています。特に、東日本大震災後の活動の中で、特定の専門分野に関わるテーマであっても、狭義の専門家以外の研究者が議論に加わることで、多角的で、根本的な議論が可能となるという点の重要性が強調されてきました。このため、従来の課題別委員会に加えて、幹事会主導で分野横断的なテーマを取り上げようという趣旨で、幹事会付置委員会の概念を拡張して、多数の委員会・分科会を設置して成果を上げてきました。今期は、幹事会付置委員会と課題別委員会の制度の見直しを行い、課題別委員会の設置数制限等を緩和した上で、これと幹事会付置委員会を統合して、新たな課題別委員会として発足させました。今後とも、課題別委員会の適切な設置、部における分野横断的な審議組織としての部直属の分科会、複数の分野別委員会が設置する分科会、さらに機能別委員会や幹事会付置委員会を活用して、分野横断的な議論を促進していきます。

一方で、分野別委員会においても、一定の範囲内とはいえ、その中にいくつかの分野や学会の関係者が横断的に集まっていること、国際的な活動に対応した活動を行っているなど、単一の学会に比べれば幅広い分野の会員・連携会員が関わるのが通例であり、学術会議に分野別活動が存在することの意義を見出すことができるのも事実です。

全体的な予算制約の下で、学術会議の特性を生かして多様な分野横断型の活動を強めていきたいと思います。

(学術会議による見解の発信)

勧告や要望といったより強い意思の表出を発出すべきとの御指摘がありました。学術会議の意思の表出の形態を振り返ると、設立の初期の頃には勧告や要望が多く出され、1985年の法改正以降は報告が増加し、近年では提言が増えているという変化を見ることができます。その背景には、政府諸機関に審議会をはじめとして専門家の意見を聴くための様々な制度が設けられ、学術会議の役割が変化してきたことがあります。学術会議として、こうした変化をどのように受け止め、どのような役割を自らに課していくのかという根本的な問題があると認識しています。こうした点を踏まえて、学術会議が果たすべき役割については、期首の総会における会長報告や、折に触れて発表する会長からのメッセージにおいて示すとともに、総会毎の会長報告で、半年間の目標達成を総括し、次の半年間の目標を明らかにしてきました。もちろん、重要テーマに関する総会や幹事会での議論が、学術会議の方向を示すことになります。これらを今後も続け、学術会議としてのPDCAサイクルを回していくことが必要だと思います。その上で、学術会議からの発信の中で、最も強いメッセージである勧告と要望についても、乱用を戒めつつ活用の機会を的確に見出したいと思います。

2. 時宜を得た活動を行うための体制の強化について

【指摘事項（外部評価から抜粋）】

審議の開始時期や意思の表出に当たっては時宜を得て行うことが極めて重要であるにも関わらず、学術会議の活動の中には、時機を失したものも見受けられる。例えば、人文・社会科学系学部廃止の議論は、6. 8 通知の1年前には国立大学法人評価委員会で審議されており、学術会議内においても、より早期に審議を開始し、意見表明を行うことができたと思われる。また、第5期科学技術基本計画に対する提言、国立大学の第3期中期目標・計画への対応についても、政策の流れを踏まえ、先を見越して審議を開始していれば、学術会議からより一層の時宜を得た提言が発出することができたと思われる。意義深い活動を行っているにも関わらず、時機を失したために学術会議の提言等が政策に必ずしも反映されないことがあっては、非常に残念なことである。

時宜を得た提言を行うためには、近年の政策決定の流れが非常に早いことを念頭に、常日頃より、政策や学術の動向等を的確に把握することに努めるとともに、科学者の研究・教育現場での実情や認識などを踏まえたエビデンスをベースとすることが必要である。そのために、情報収集を行った上で現象・エビデンスその他を把握し、調査分析を行うための学術調査員を増強する等、引き続き人材確保に努力すべきである。

学術会議が取り組むべき課題を把握するには、会長は関係機関の長として総合科学技術・イノベーション会議の議員を務めているので、会長が得た総合科学技術・イノベーション会議の情報等を活用することも考えられる。また、論説委員等のメディアとの懇親の場も学術会議が取り組むべき課題を把握する上で役立つと思われるので、これまで以上に積極的に懇談の場を設けるべきである。

【指摘事項についての考え方と対応】

時宜を得た活動を行い、学術会議の提言等がより一層政策に反映されるためには、学術会議として取り組むべきテーマを早期に設定し、社会をリードする形で、審議を始めることが必要です。政策の動向を的確に把握するため、日本学術会議会長として議員を務める総合科学技術・イノベーション会議やその他の政策形成に関わる動きについての情報を積極的に活用するとともに、論説委員等のメディアとの懇談の場、経済団体等との意見交換の場を定期的に設け、社会的な重要課題の把握に努めます。

また、訴求力のある意思の表出を行うためには、基礎となるエビデンスの収集が不可欠であり、厳しい財政事情の中で、調査分析を行うための学術調査員の増強について努力します。

3. 会議体の整理・合理化、重点化、連携会員の削減等のスリム化について

【指摘事項（外部評価から抜粋）】

400 以上の会議体、約 2,100 名の会員・連携会員という規模は、学術会議の本来

的使命を果たすための組織としては大きすぎるといえる。組織の規模が大きくなりすぎると、活動が分散化され、重要課題の議論が不十分になる懸念がある。また、組織の規模の大きさの割には、相対的に意思の表出の件数が少なく、アウトプットが限られている印象も否めない。

毎年財政難に直面していることも踏まえると、学術会議には、課題に優先順位を付け、各学会で対応可能な専門的事項を扱う会議体や、意思の表出の見込みの無い会議体については廃止する等、思い切った整理・合理化を行う必要がある。また、会員・連携会員に関しては、学術を俯瞰して判断できる人物が総合的に判断して活動を行うことを踏まえると、必ずしも全ての学問分野の専門家を入れる必要は無いと考えられる。ましてや、これだけ多くの会員・連携会員がいるにも関わらず、さらに専門的分野を補う特任連携会員は基本的に不要である。学術会議の存在感を高めるためにも、会議体の廃止を含めた抜本的な整理・合理化や重点化、連携会員数・会議体数の削減による組織のスリム化、特任連携会員の選任の限定化について検討を行い、実行に移すべきである。

また、コストを削減する観点や社会とのコミュニケーションを充実させる観点からも、テレビ会議やネット配信等の情報通信技術をより一層活用することも必要である。

【指摘事項についての考え方と対応】

(会議体の活動点検)

学術会議には、現在、委員会、分科会、小分科会及び小委員会を含め、482 の会議体があります（2016 年 5 月現在）。前述のように、その中で、分野横断的な委員会等が増えているなど学術会議の役割に対応した活動が促進されていると考えています。しかし、委員会等が増えていることによって、旅費、手当の不足が生じていること、毎期の提言等の数は、近年増加しているとはいえ、130～150 程度で推移しており、提言等の形で成果を出していない委員会等も少なくないことも事実です。

したがって、委員会毎の目的を明確化して、それぞれに対応した効果的な活動を進めていかなければなりません。こうした観点から、期末には、全ての会議体について、第 23 期の活動成果を検証する機会を設け、活動成果に応じて、会議体の整理・合理化を含め、会議体の在り方を検討し、真に必要なものを次期に引き継ぐようにします。

(特任連携会員制度の限定的な運用)

特任連携会員については、第 22 期においてその在り方を見直し、会員、連携会員の中に国際業務や特定の専門的事項に係る深い見識を有する専門家がいなかったために十分な審議をすることが困難な場合に限って任命する制度であるという観点から抑制的に運用することになり、「委員会及び分科会等に係る特任連携会員の選考の在り方について」（平成 23 年 12 月幹事会決定）を作りました。

その結果、それ以前と比べて、特任連携会員数は大幅に減少しています（第 21 期末 342 名、第 22 期末 264 名、第 23 期 2016 年 5 月現在 167 名）。今後も、同決定に定められた選考要件に基づいて運用していきます。

4. スクラップアンドビルドの制度導入とコンプライアンス体制の構築の検討について

【指摘事項（外部評価から抜粋）】

学術会議の目的に合致した、真に重要な課題の審議や、意思の発出に重点を絞るためにも、会議体の設置や継続に関しては、学術会議が行うべきものか否かを検証・評価するプロセスを構築することが重要である。そして、新たな会議体の設置に際しては、スクラップアンドビルドの制度を導入すべきである。例えば、時限設置の委員会は、期間中の活動に集中し安易な継続を避け、提言が出せない又は活動できない会議体を見極め廃止すること、新たな会議体を設置するためには既存の会議体を廃止することを原則とし、徹底されたい。

また、様々なことが起こりうる今日においては、財政難の検証や予算執行が適切に行われているか否か、意思の表出に係る活動をしつかりと行っているか否かをチェックするためにも、コンプライアンス対応を行う体制を構築しておくことが重要である。例えば、上述のようにスクラップアンドビルドによって組織を整理した上でコンプライアンス委員会を立ち上げる等、コンプライアンス体制を速やかに構築すべきである。なお、コンプライアンス体制の構築に当たっては、次代を担う若手人材の起用を図ることも検討されたい。

【指摘事項についての考え方と対応】

委員会等の在り方については、目標を明確化して、達成度をチェックするという観点から、効果的な活動が常に行われるようにしていきます。

また、コンプライアンスは重要な課題であり、会員連携会員及び事務局が行う活動が法の趣旨に対応し、学術会議の目標達成に資するものとする必要があるとの観点から、態勢整備を図ります。

5. 地方での活動の強化について

【指摘事項（外部評価から抜粋）】

地方メディアとの連携や情報交換等、地方メディアとの接点を意識的に増やしたり、地方でシンポジウムを開催したり、会長自らが講演を行う機会を設けるなど、東京の人が地方に聞きに行きたいと思えるイベントを開催する等、見える形での活動を行っていただきたい。学術会議には、昭和 63 年の閣議決定に基づく横浜市への移転問題があるが、有識者会議報告書において「現在地よりも適した移転場所を見出すことは難しい」と指摘されているように、安易に移転を考えず、むしろ、学術会議が地方に出て活動し、地方での活動の熱量が東京に劣らないくらい活発にな

ることこそが、地方へ移転するよりも遥かに効果があることを認識すべきである。

また、地方でのシンポジウムや地区会議主催の学術講演会等と併せて、地方メディアの論説委員や記者との懇談会を開催すべきであり、そのための予算が確保できるよう、特別枠の活用等を含め検討すべきである。

【指摘事項についての考え方と対応】

地方での活動を強化することは、地域の学術の振興や地域における学術と社会の対話に寄与するものです。学術会議として、各地域における活動をさらに活発化させる方策について検討し、実行します。

地方メディアの論説委員や記者との懇談会については、シンポジウムや地区会議の開催と合わせて企画します。また、地方での活動強化のための予算についても、平成 29 年度予算概算要求において、特別枠を活用して要求していきます。また、こうした地方での活動を担うために、会員・連携会員の選考に当たっては、各地方を活動の拠点にするメンバーが一定数確保されるように目標を定めてその達成に努力します。

委員会等の開催地は、予算の制約上、原則として東京 23 区内ですが、旅費の支給が不要の場合や少額の場合には、幹事会の承認があれば地方で開催できるよう既に規程を改正しました。今後、この規程に基づいて地方開催を増やすように努めます。

6. 協力学術研究団体との関係について

【指摘事項（外部評価から抜粋）】

協力学術研究団体数が 2,000 を超えることは大変素晴らしいが、学術会議と各学会との関係性や双方のメリットが明確ではない部分もある。今後、実績の伴った活動を行うためにも、各学会から学術会議に対し自発的な活動報告を義務付ける制度を導入することや、学術会議を通じた連携体の発足等による幅広い専門の学会同士の連携を推進すること等、コストを下げつつも、双方のパートナーシップを高める工夫が必要である。

【指摘事項についての考え方と対応】

協力学術研究団体については、質の向上と学術会議との連携をより一層強化するための基礎データを得ることを目的として、協力学術研究団体実態調査を継続的に実施しています。また、今年 1 月には、防災についての日常的な連携を図るため、防災に関する研究を行っている土木建築関係学会や社会学会等 50 学協会が参加して防災学術連携体が発足しました。研究分野が異なる学協会が互いに連携することで、幅広い研究や取組が期待できるため、引き続き、学術会議の活動を通じて学協会の連携を進めます。

7. ダイバーシティ（多様性）の確保について

【指摘事項（外部評価から抜粋）】

若手アカデミーの発足や、男女共同参画に係る提言の発出等、学術会議は、若手人材や女性の活動支援について積極的であり、ダイバーシティ（多様性）に先駆的に取り組んでいるといえる。今後、活動に参加している若手・女性の生の声が反映される仕組みがつくられることを期待する。そのためにも、こういった活動に十分な予算が確保できるよう、特別枠の活用等を含め検討すべきである。

【指摘事項についての考え方と対応】

今期から新たに若手アカデミーが発足し、若手科学者の視点を活かした活動や若手科学者ネットワークの強化に取り組んでいます。また、昨年夏には、第4次男女共同参画基本計画（平成27年12月閣議決定）に盛り込むべき内容をまとめた提言「科学者コミュニティにおける女性の参画を拡大するための方策」を公表しました。来期の会員・連携会員の選考に当たっても、会員については2020年における30%女性会員確保の目標を達成し、連携委員については次々回の改選でこの目標が達成できるように着実に女性の割合を増やしていきます。また、若手研究者の活動のための予算についても、平成29年度予算概算要求において、特別枠を活用して要求してまいります。さらに、次期に向けた会員・連携会員の選考に当たっては、性別・年齢・地域・所属等のバランスについて配慮を行い、多様性の確保に努めます。会員・連携会員への就任が認められていない外国籍研究者についても、日本学術会議外国人アドバイザー制度の新設等によって、審議への実質的な参加が可能となるよう改善します。

8. Gサイエンス学術会議等の国際活動について

【指摘事項（外部評価から抜粋）】

学術会議は、日本のアカデミックな唯一の窓口であるという意識を持ち、世界に向けての発信、そして、現代社会の中で変化しうる国内外の社会的な課題に対して、提言等を行うべきである。Gサイエンス学術会議のような、世界全体の平和、人類共通の課題へ取り組む国際会議において、学術会議が責任を持つことは、我が国としても非常に重要なことである。また、国際的な独自のネットワークを広げるだけでなく、学術会議のフィルターを通して社会に還元して欲しい。今後も、持続可能な社会のための研究等、分野横断的・総合的な問題について今まで国際社会に向けて発信してきた活動経験を活かし、学術会議が学問の中立的・自立的な団体として責任を果たすことを期待する。

【指摘事項についての考え方と対応】

今年2月に学術会議が主催したGサイエンス学術会議では、世界各国のアカデミーの代表者が集まり、「脳科学」、「災害レジリエンス」、「未来の科学者」という重要テーマについて共同声明を取りまとめ、伊勢志摩サミットの科学技術大臣会合の議論に活用されました。その他、環境問題を始めとする地球規模の課題解決のため、世界各国が協力するフューチャー・アースの活動が始まっており、学術会議が、国

際事務局の一員として積極的にリーダーシップを発揮しています。引き続き、精力的な国際活動を行うとともに、その成果を社会に還元し、日本を代表するアカデミーとして力を発揮していきます。

9. 広報について

【指摘事項（外部評価から抜粋）】

学術会議の活動は多岐にわたっていて複雑であり、また、会議体の名称も長く、名称だけではどのような活動をしている会議体か分からず、テーマも理解しづらい。研究者の観点、つまり送り手の論理ではなく、広報の観点、つまり受け手である国民の論理で見直して整理することが有効である。そのためにも、例えば、メディアから見た学術会議のイメージを把握する公聴の機会をつくることを検討されたい。また、広報のためのスタッフを増強するよう、引き続き検討すべきである。

【指摘事項についての考え方と対応】

学術会議の活動を国民にとって分かりやすく発信することは重要な課題です。今期より、広報機能の強化を図るため、幹事会附置委員会として、新たに広報委員会を設置しました。会議体の名称や審議テーマは、時宜にかなった絞り込を行い、その点を表現することが必要ですが、一方で、受け手である政府、社会にとって分かりやすいという視点に立って、熟考していきます。また、メディア関係者や経済界等との懇談会を引き続き定期的に実施し、学術会議の在るべき姿を客観的に再認識する機会とするとともに、外から見た学術会議のイメージの把握に努めてまいります。広報のためのスタッフについては、現存する事務局の力をより積極的に発揮するように努力するとともに、厳しい財政事情の下で、増強に向け引き続き努力していきます。

第23期の活動開始から約1年半が経過し、今後、期末に向けて各委員会等から様々な提言等が発出されると思います。会員、連携会員の皆様には、是非、学術会議に期待される役割を改めて認識いただき、有意義な審議・提言活動を行っていただくことにより、学術会議がより一層社会のために役割を果たし、科学と社会の橋渡しができるよう努めていきたいと思っています。

2 会長等出席行事

月 日	行 事 等	対 応 者
5月24日(火)	科学技術外交シンポジウムー科学技術を通じた日本外交の新たな方向ー（政策研究大学院大学）	花木副会長
5月26日(木)	総合科学技術・イノベーション会議有識者会合	大西会長
5月26日(木)	記者会見「安全保障と学術に関する検討委員会」の設置について	大西会長

※	5月28日(土)	第19回国際細胞学会議(パシフィコ横浜)	花木副会長
	5月29日(日) ～6月2日(木)	第16回アジア学術会議年次会合 (スリランカ・コロンボ)	大西会長
	6月1日(水) ～6月4日(土)		花木副会長
	5月29日(日) ～5月31日(火)	第8回ICSU「都市環境の変化と健康」科学委員会(フランス・パリ)	花木副会長
	6月16日(木)	総合科学技術・イノベーション会議有識者会合	大西会長
	6月22日(水)	日本学術会議中部地区会議学術講演会「新学術創成への挑戦と取組」(金沢大学自然科学大講義棟レクチャーホール)	花木副会長

(注) 部会、委員会等を除く。

3 委員の辞任

○地域研究委員会地理教育分科会大学地理教育小委員会

矢ヶ崎 典隆(平成28年4月17日付)

○第三部附置分科会

「科学技術の光と影を生活者との対話から明らかにする」分科会

保立 和夫(平成28年5月20日付)

○科学技術を生かした防災・減災政策の国際的展開に関する検討委員会

大槻 英治(平成28年5月20日付)

第2. 各部・各委員会報告

1 部会の開催とその議題

(1) 第三部拡大役員会(第16回)(6月24日)

①オープンサイエンスの取組に関する検討委員会の活動について

②「科学技術の光と影を生活者との対話から明らかにする」分科会の活動について

③電子ジャーナル購読料高騰問題について

④学協会と学術会議の連携強化について

⑤その他

2 幹事会附置委員会の開催とその議題

なし

3 機能別委員会の開催とその議題

(1) 科学者委員会 (第25回) (5月23日)

- ①近畿地区会議等主催公開シンポジウム開催の件
- ②協力学術研究団体の指定の件 (4件)

(2) 広報委員会 (第3回) (5月28日)

- ①第1回及び第2回議事要旨案の確認
- ②『学術の動向』の編集について
- ③今期の広報活動について
- ④その他

(3) 科学者委員会 学術の大型研究計画検討分科会 情報学分野の大型研究計画評価小分科会 (第2回) (5月31日)

- ①評価結果とりまとめ、利益相反についての確認の審議・決定
- ②その他

(4) 科学者委員会 男女共同参画分科会 (第8回) (6月2日)

- ①第14回男女共同参画学協会連絡会シンポジウム後援の件

(5) 科学者委員会 学術の大型研究計画検討分科会 食料科学分野の大型研究計画評価小分科会 (第2回) (6月7日)

- ①評価結果とりまとめ、利益相反についての確認の審議・決定
- ②その他

(6) 科学者委員会 学術の大型研究計画検討分科会 土木工学・建築学分野の大型研究計画評価小分科会 (第2回) (6月7日)

- ①評価結果とりまとめ、利益相反についての確認の審議・決定
- ②その他

(7) 科学者委員会 学術の大型研究計画検討分科会 物理学分野の大型研究計画評価小分科会 (第2回) (6月8日)

- ①評価結果とりまとめ、利益相反についての確認の審議・決定
- ②その他

(8) 国際委員会 国際対応戦略立案分科会 (第3回) (6月8日)

- ①ヒアリング対象となる加入国際学術団体について

(9) 科学者委員会 学術の大型研究計画検討分科会 環境学分野の大型研究計画評価小分科会 (第2回) (6月9日)

- ①評価結果とりまとめ、利益相反についての確認の審議・決定
- ②その他

(10) **国際委員会 国際会議主催等検討分科会** (第12回) (6月9日)

- ①「第2回世界獣医師会-世界医師会“One Health”に関する国際会議」の後援について
- ②「第21回国際疫学会総会」の後援について

(11) **科学者委員会 学術の大型研究計画検討分科会 農学分野の大型研究計画評価小分科会** (第2回) (6月10日)

- ①評価結果とりまとめ、利益相反についての確認の審議・決定
- ②その他

(12) **科学者委員会** (第26回) (6月13日)

- ①第14回男女共同参画学協会連絡会シンポジウム後援の件

(13) **科学者委員会 学術の大型研究計画検討分科会 総合工学分野の大型研究計画評価小分科会** (第2回) (6月14日)

- ①利益相反に関する審議・確認
- ②評価結果の審議・決定
- ③その他

(14) **科学と社会委員会 科学力増進分科会** (第2回) (6月16日)

- ①全国縦断サイエンスカフェに関する規定等の承認
- ②隔月開催の文部科学省との共催サイエンスカフェの担当者決定(2017年1月以降分)
- ③サイエンスアゴラへ提案する学術会議企画について
- ④公開シンポジウム「これからの高校理科教育のありかた」@東京大学(6月4日開催)の報告
- ⑤その他

(15) **科学と社会委員会 年次報告検討分科会** (第5回) (6月20日)

- ①年次報告書(案)について
- ②その他

(16) **国際委員会** (第22回) (6月22日)

- ①後援名義申請について

4 分野別委員会の開催とその議題

第一部担当

(1) 社会学委員会 社会福祉学分科会 (第7回) (5月20日)

- ①杉並区での取り組みについて
- ②支援困難事例の実証研究について
- ③提言(案)の骨子について
- ④その他

(2) 法学委員会 社会と教育におけるLGBTIの権利保障分科会 (第6回) (5月21日)

- ①シンポジウム打合せ
- ②次回シンポジウムについて
- ③その他

(3) 法学委員会 人口減少社会と法分科会 (第4回) (5月21日)

- ①小田切 徳美委員、宇佐美 誠委員からの報告と議論
- ②今後の分科会活動について
- ③その他

(4) 社会学委員会 東日本大震災の被害・影響構造と日本社会の再生の道を探る分科会 (第7回) (5月23日)

- ①分科会の成果とりまとめの方向性について
- ②その他

(5) 経営学委員会 地域経営学の研究・教育のあり方検討分科会 (第1回) (5月26日)

- ①委員長等の決定について
- ②報告「地域経営学の研究・教育の現状について」
報告書：藤永委員
- ③質疑およびフリーディスカッション
- ④今後の活動について
- ⑤その他

(6) 地域研究委員会 国際地域開発研究分科会 (第5回) (5月26日)

- ①報告：三重野委員(連携会員、京都大学)
「『これからの日本の国際協力』へのコメント：金融支援の側面について」
- ②討論：提言にむけての意見交換
- ③その他

(7) 政治学委員会 政治思想・政治史分科会 (第4回) (5月28日)

- ①公開シンポジウム「政治思想における「アジア」問題－西洋と東洋の相互反照」の準備について
- ②その他

(8) 法学委員会 「市民性」涵養のための法学教育システム構築分科会 (第4回) (6月1日)

- ①報告
 - (i) 稲 正樹委員
「教育学部における憲法教育－ICUにおける実践と反省」
 - (ii) 浅倉 むつ子委員
「法科大学院におけるジェンダー法教育－早稲田大学の経験を交えて」
- ②新規高校必修予定科目「公民」について (三成 美保委員)
- ③「人文社会科学」問題について (小森田 秋夫委員、あるいは三成 美保委員)
- ④シンポジウム計画について
- ⑤その他

(9) 政治学委員会 比較政治分科会 (第6回) (6月3日)

- ①シンポジウムについて
- ②提言(報告)の進行状況について
- ③ミニシンポジウムの日程
- ④その他

(10) 史学委員会 歴史認識・歴史教育に関する分科会 (第4回) (6月6日)

- ①コンピテンス調査研究の可能性と課題
－歴史学における調査結果と欧州の活用事例から
松塚 ゆかり (一橋大学 森有礼高等教育国際流動化センター教授)
- ②今後の分科会の進め方について
- ③その他

(11) 史学委員会 歴史学とジェンダーに関する分科会 (第8回) (6月12日)

- ①中央教育審議会での「歴史総合」議論の進捗状況と歴史教育の未来
報告 長野県長野高等学校 教頭 小川 幸司
- ②分科会としての意志の発出についての分担とスケジュール確認
- ③Gender Summit 8 (@メキシコシティ) 報告と Gender Summit 10 (@東京) の見通し
- ④その他

(12) 言語・文学委員会 文化の邂逅と言語分科会 (第6回) (6月13日)

①これまでの議論のまとめ

②初等中等教育における言語教育

文部科学省初等中等教育局教育課程課長 合田 哲雄

③その他

(13) 経済学委員会 ワーク・ライフ・バランス研究分科会 (第8回) (6月14日)

①報告 (久本委員)

「働き方の見直しと労働時間規制―共稼ぎモデルからの発想―」

②その他

(14) 第一部 人文・社会科学の役割とその振興に関する分科会 (第4回) (6月17日)

①第一部文書「危機を克服し、社会の期待に応える人文・社会科学の発展のために」について

②第2回シンポジウムについて

③その他

(15) 社会学委員会 ジェンダー研究分科会 (第4回) (6月18日)

①昨年度の活動報告について

②今後の企画について

③その他

(16) 政治学委員会 政治過程分科会 (第5回) (6月18日)

①本日の公開シンポジウムについての最終確認

②12月開催予定の公開シンポジウムについての検討

③その他

(17) 経済学委員会 数量的経済・政策分析分科会 (第3回) (6月18日)

①来年度以降のチュートリアルセッションについて

②2017年度の関西計量経済研究会の共催について

③税務データの利用について (中間報告)

④次回の予定について

⑤その他

(18) 社会学委員会・経済学委員会合同 包摂的社会政策に関する多角的検討分科会 (第5回) (6月21日)

①内閣府・厚生労働省の高齢者施策について

②シンポジウムの企画について

③前回会議における議事進行について

(19) 法学委員会 生殖補助医療と法分科会 (第1回) (6月22日)

- ①役員の選出について
- ②特任連携会員の選出について
- ③今後の進め方
- ④その他

(20) 法学委員会 「IT社会と法」分科会 (第4回) (6月22日)

- ①委員による個別報告
- ②野澤委員「『忘れてもらう権利』とプライバシーの保護」
- ③今年度の活動計画
- ④その他

第二部担当

(1) 食料科学委員会 畜産学分科会 (第4回) (5月20日)

- ①前回分科会以降の活動
- ②日本畜産学アカデミーに係わる活動
- ③対外報告の作成等
- ④公開講演会・シンポジウムの共催等
- ⑤今後の日本畜産学アカデミーの運営
- ⑥その他

(2) 臨床医学委員会 放射線・臨床検査分科会 (第4回) (5月25日)

- ①医療被ばくについて
- ②病理関係について
- ③その他

(3) 基礎生物学委員会・統合生物学委員会合同 生態科学分科会 (第3回) (5月30日)

- ①4月の日本学術会議総会と統合生物学・基礎生物学委員会の報告
- ②マスタープラン(大型研究計画)について
- ③国立自然史博物館計画について
- ④報告「生態学の展望」(案)の文書についての確認
- ⑤今後の生態科学分科会の活動予定について
- ⑥その他

(4) 農学委員会・食料科学委員会合同 農学分野における名古屋議定書関連検討分科会 (第6回) (6月3日)

- ①提言案の検討
- ②関連分科会との意見交換
- ③その他

(5) 農学委員会 育種分科会 (第4回) (6月9日)

- ①育種学分科会シンポジウムについて
- ②育種学分科会提言について
- ③その他

(6) 農学委員会 地域総合農学分科会 (第5回) (6月10日)

- ①参考人・千賀氏による講演
「農村における就業機会の拡大に関する検討会」より
- ②小田切委員からの情報提供
「大学等の知と人材を活用した持続可能な地方の創生に関する研究会報告書」より
- ③「地域総合農学の展望」提言に向けた審議
- ④その他

(7) 薬学委員会 生物系薬学分科会 (第4回) (6月10日)

- ①二部会報告 (第二部部長・長野先生から)
- ②生物系薬学分科会の企画による今後のシンポジウム
- ③その他

(8) 薬学委員会 チーム医療における薬剤師の職能とキャリアパス分科会 (第3回)
(6月10日)

- ①薬剤師をめぐる専門・認定制度の整備
- ②その他

(9) 基礎医学委員会・臨床医学委員会・健康・生活科学委員会合同 医学分野の参
照基準検討分科会 (第2回) (6月16日)

- ①医学分野参照基準の原案の検討
- ②今後の方針について
- ③その他

(10) 基礎生物学委員会・統合生物学委員会合同 遺伝学分科会 (第3回) (6月2
3日)

- ①高校の生物学教育
- ②その他

第三部担当

(1) 土木工学・建築学委員会 IRDR分科会 (第8回) (5月20日)

- ①熊本地震への IRDR 分科会としての対応
- ②IRDR SC パリの報告
- ③その他

(2) 総合工学委員会・材料工学委員会合同 持続可能なグローバル資源利活用に係る検討分科会 (第3回)、材料工学委員会 材料の循環使用検討分科会 (第3回) 合同会議 (5月23日)

- ①素材の循環利用について
- ②分科会報告作成の検討について
- ③その他

(3) 経営学委員会・総合工学委員会合同 サービス学分科会 (第5回) (5月25日)

- ①サービス学の参照基準策定小委員会 報告
 - ・開催報告
 - ・「サービス学の参照基準」(案)の検討
 - ・今後の参照基準検討スケジュール
- ②シンポジウム開催計画
- ③科学研究費に関する動向報告
- ④その他

(4) 環境学委員会・地球惑星科学委員会合同 IGBP・WCRP・DIVERSITAS合同分科会 C l i C 小委員会 (第2回) (5月26日)

- ①委員長の交代
- ②最近の C l i C の状況報告
- ③今後の活動
- ④その他

(5) 地球惑星科学委員会 IMA分科会 (第2回) (5月26日)

- ①IMAの各コミッションの活動報告と活動内容の検討
- ②IMA Award 候補の検討
- ③大型研究計画マスタープランの動向について
- ④鉱物科学における人材育成に関する諸問題について
- ⑤国際発信力の強化方策
- ⑥日本地球惑星科学連合の動向について
- ⑦IMA国内委員会の活性化の方法について
- ⑧その他

(6) 化学委員会 高分子化学分科会 (第3回) (5月27日)

- ①大型マスタープランについて
- ②今後の分科会活動について

(7) 総合工学委員会・機械工学委員会合同 計算科学シミュレーションと工学設計分科会 心と脳など新しい領域検討小委員会 (第5回) (5月27日)

- ①話題提供1：恐神貴行（日本 IBM 基礎研究所）、動的ボルツマンマシン
- ②話題提供2：植田一博（東京大大学院総合文化研究科・教養学部）、
脳の学習理論から高次認知を再考する：
商品選択と創造的思考を例にして
- ③その他

(8) 環境学委員会 環境科学分科会 (第5回) (6月1日)

- ①シンポジウム企画について
 - (i) 越境大気汚染と酸性雨
 - (ii) エネルギー・環境・物質循環システムに社会実装
- ②環境科学の成果の社会実装に関する提言（仮）の内容について
- ③その他

(9) 総合工学委員会・機械工学委員会合同 工学システムに関する安全・安心・リスク検討分科会 安全目標の検討小委員会 (第9回) (6月1日)

- ①安全目標の検討シナリオ
 - (i) 全体シナリオの進捗状況
 - (ii) 各分野のシナリオの進捗状況
 - (1) プラント系
 - (2) インフラ系（土木・建築、電力・ガス・水道、鉄道・船舶・航空・自動車）
 - (3) 情報システム
 - (4) 製品
 - (5) 労災
- ②安全工学シンポジウム事前確認
- ③その他

(10) 材料工学委員会 材料工学ロードマップのローリング分科会 (第5回) (6月2日)

- ①社会インフラ材料学6項目とグリーン・エネルギー材料学8項目のロードマップの検討
- ②シンポジウム開催に関する検討
- ③活動結果の表出（提案、記録等）について

④その他の意見交換

(11) 総合工学委員会 未来社会と応用物理分科会 (第4回) (6月3日)

- ①総合工学委員会の報告
- ②豊田長康先生ご講演 (鈴鹿医療科学大学 学長)
- ③「応用物理学会からの未来社会の科学創出」について議論

(12) 総合工学委員会 原子力事故対応分科会 (第4回) (6月3日)

- ①小委員会からの報告
- ②今後の進め方に関する議論
(提言・報告・記録とそれらの英文版、シンポジウム、学術の動向ほか)
- ③その他

(13) 総合工学委員会・機械工学委員会合同 工学システムに関する安全・安心・リスク検討分科会 老朽及び遺棄化学兵器の廃棄に係るリスク評価とリスク管理に関する検討小委員会 (第6回) (6月6日)

- ①安全工学シンポジウム 2016 について
- ②今期提言等とりまとめについて
- ③その他

(14) 総合工学委員会・機械工学委員会合同 工学システムに関する安全・安心・リスク検討分科会 車の自動運転検討小委員会 (第5回) (6月6日)

- ①委員長挨拶, 新委員のご紹介
- ②話題提供 1 件
タイトル: BMW における自動運転に関する取り組み等 (案)
講演者: BMW ジャパン ロートハルト様
- ③「提言」のまとめに向けたディスカッション
- ④そのほか

(15) 健康・生活科学委員会・環境学委員会合同 環境リスク分科会 (第5回) (6月9日)

- ①「カドミウム環境汚染とイタイイタイ病:レギュラトリー・サイエンスの観点から」(青島委員)
- ②今後の予定

(16) 物理学委員会 IAU分科会 (第6回)、物理学委員会 天文学・宇宙物理学分科会 (第6回) 合同分科会 (6月9日)

- IAU分科会
- ① IAU関係状況報告と後援申請の状況

②その他

天文学・宇宙物理学分科会

①学術の大型計画 マスタープラン 2017 について

②将来計画に関するシンポジウムについて

③会員・連携会員改選について

④その他

(17) 総合工学委員会 エネルギーと科学技術に関する分科会 (第6回) (6月10日)

①小委員会状況報告

②今後の活動方針

③その他

(18) 電気電子工学委員会 URSI 分科会 (第5回) (6月10日)

①エレクトロニクスソサエティの活動について

②電子情報通信学会への会計関連書類の提出について

③第2回 EMS ジョイントワークショップの URSI 日本国内委員会協賛について

④2015 年 URSI 日本電波科学会議 (URSI-JRSM 2015) の開催について

(i) URSI-JRSM 2015 報告書の電子情報通信学会への提出について

(ii) 特集号について

(1) URSI-JRSM 2015 SPC 特集号の Radio Science Bulletin 掲載について

(2) URSI-JRSM 2015 特集号の Radio Science 掲載について

(3) その他

(iii) その他

⑤今後の URSI 日本電波科学会議 (URSI-JRSM) のあり方について

⑥その他

(19) 経営学委員会・総合工学委員会合同 サービス学分科会 サービス学の参照基準策定小委員会 (第5回) (6月13日)

①第5回サービス学分科会 (平成28年5月25日開催) での質疑・意見への対応

②サービス学の参照基準の原案の討議

(i) はじめに

(ii) (1) サービスの定義

(2) サービス学の定義をめぐる分類軸

(iii) サービス学に固有の特性

(iv) (1) サービス学の学びを通じて獲得すべき基本的な知識と理解

(2) サービス学の学びを通じて獲得すべき基本的な能力

(v) 学修方法及び学修成果の評価方法に関する基本的な考え方

(vi) 市民性の涵養をめぐる専門教育と教養教育との関わり

- (vii) 小学学修としてのサービス学教育体系
- ③シンポジウムについて
- ④今後の進め方
- ⑤その他

(20) 総合工学委員会・電気電子工学委員会合同 IFAC分科会 自動制御の多分野応用小委員会 (第2回) (6月14日)

- ①自動制御連合講演会運営に関する事項
 - (i) 第58回自動制御連合講演会報告
 - (ii) 制御工学教員協議会報告
 - (iii) 第59回自動制御連合講演会準備状況
 - (iv) 同制御工学教員協議会計画
 - (v) 第60回自動制御連合講演会計画
- ②IFAC分科会の活動について
- ③制御工学教員協議会のあり方
- ④今後の活動計画

(21) 総合工学委員会 ICO分科会 (第7回) (6月16日)

- ①ICO-24について
- ②今後の活動について
- ③その後

(22) 電気電子工学委員会 制御・パワー工学分科会 (第4回) (6月24日)

- ①分科会企画の公開シンポジウムの最終確認
- ②電気電子工学分野の大型研究計画
- ③電気電子工学委員会報告
- ④今後の分科会活動について
- ⑤その他

5 課題別委員会の開催とその議題

(1) 学術振興の観点から国立大学の教育研究と国による支援のあり方を考える検討委員会 (第7回) (5月30日)

- ①提言素案についての検討
- ②今後の検討スケジュール
- ③その他

(2) 東日本大震災に係る学術調査検討委員会拡大役員会 (第3回) (6月20日)

- ①東日本大震災に関する学術調査・研究活動アンケートの実施結果の確認

- ②東日本大震災に関する学術調査・研究活動アンケートの実施結果とりまとめの方針と進め方
- ③東日本大震災に関する学術調査・研究活動アンケートの実施結果とりまとめの分担について
- ④その他

6 若手アカデミーの開催とその議題

- (1) 若手アカデミー運営分科会 (第5回) (6月2日)
 - ①熊本地震への若手アカデミーの対応について (狩野)
 - ②各分科会の活動状況・課題の共有
 - (i) 学術の未来分科会 (福永)
 - (ii) ネットワーク分科会 (宇南山)
 - (iii) 社会連携 (吉田)
 - (iv) 国際分科会 (北村)
 - ③次期若手アカデミー会員の選出方法について (住井)
 - ④次回若手アカデミー総会 (秋) について (隠岐)
 - (i) 日程
 - (ii) 場所
 - (iii) 議題について
 - ⑤その他

7 サイエンスカフェの開催

日 時：5月27日 (金) 19:00～20:30
 場 所：文部科学省情報ひろばラウンジ (旧庁舎1階)
 テーマ：「日本の森林～その生理、生態、歴史」
 ゲスト：舘野 正樹 (東京大学大学院理学系研究科附属日光植物園・准教授)
 コーディネーター：福田 裕穂 (日本学術会議会員、東京大学大学院理学系研究科長)

日 時：6月17日 (金) 18:30～20:30
 場 所：サロン・ド・FUZAMBO Folio
 テーマ：「森田浩介博士が語る 113 番元素発見と命名権獲得までの長い道のり」
 ゲスト：森田 浩介 (理化学研究所仁科加速器研究センター超重元素研究グループ
 グループディレクター、九州大学大学院理学研究院教授)
 櫻井 博儀 (日本学術会議連携会員、理化学研究所仁科加速器センター主任
 研究員)
 玉尾 皓平 (日本学術会議連携会員、理化学研究所研究顧問グローバル研究

クラスタ長)

コーディネーター：室伏 きみ子（日本学術会議連携会員、お茶の水女子大学長）

8 総合科学技術・イノベーション会議報告

1. 本会議

6月14日	第20回総合科学技術・イノベーション会議	持ち回り開催
6月23日	第21回総合科学技術・イノベーション会議	持ち回り開催

2. 専門調査会

なし

3. 総合科学技術会議有識者議員会合

5月26日	出席
6月2日	欠席
6月9日	休会
6月16日	出席
6月23日	欠席

9 記録

分野別委員会関係

文書番号	作成日	委員会等名	標題
SCJ第23期 280603-23551300-055	平成28年 6月3日	総合工学委員会原子 力事故対応分科会	東京電力福島第一原子力発電 所において発生した事故事象 の検討（続報）